

2月のアルミレポートおよび3月の見通し(下)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



予測レンジ

LME 現物後場買い1450-1650ドル
スクラップ 0から+5円(前月最終価格より)
為替 111-117円(一か月間)

♣ 変わらず
♣ 変わらず
☂ 円高

※平成28年3月11日付紙面で掲載させていただきました記事の続きです。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比-2.2%の6万3829 t。16カ月連続マイナス
出荷は-5.1%の6万3199 t 24カ月連続マイナス。

【アルミ圧延・押出品生産数】 -2.4% 2カ月連続マイナス 14万9432 t

板類 生産は3ヶ月ぶりにマイナス、出荷は2ヶ月連続でマイナス(出荷は先月の▲0.4% → ▲2.3%へ拡大)

(1) 缶材 30,979 t (1.9%)

ボトル缶の在庫調整完了及び一部コーヒー缶のアルミ化による需要増により、3ヶ月連続でプラス。

(2) 自動車 12,952 t (▲0.6%)

軽自動車を除く国内乗用車生産台数が増加している中(12月の軽を除く乗用車生産台数: 519千台、前年同月比: +5.7%)、自動車材としては微減となったが、これは前年の数字が高かったことによるもの。

(3) 輸出 14,502 t (▲21.1%)

海外関連工場への素条輸出の減少により、5ヶ月連続でマイナス。

押出類

生産・出荷とも16ヶ月連続でマイナス(出荷は先月の▲5.5% → ▲3.5%へ縮小)

(1) 建設: 35,697 t (▲4.0%)

建設全体としては19ヶ月連続でマイナス。なお、12月の新設住宅着工戸数はマイナスとなった(12月の着工戸数: 75,452 戸 t、前年同月比: ▲1.3%)。

(2) 自動車 10,969 t (2.5%)

軽自動車を除く国内乗用車生産台数の増加により、4ヶ月連続でプラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比-61.2%の94 t

二次合金が-13.1%の1325 t

スクラップが-37.1%の4907 t

アルミ缶が+351.28%の5095 t

【輸入】

アルミ新地金が前年比-25.4%の10万1778 t

二次合金が-14.1%の9万929 t

スクラップが-63.1%の713 t

合金スクラップが-43.1%の4090 t

【見通し】

・自動車は生産が-5.8%。2月の国内販売台数が前年比-4.6%

生産が2ヶ月連続マイナス、販売が4ヶ月振りマイナス。

生産が連続減少となった。販売の方が一転4ヶ月ぶりマイナスに。

販売のマイナスが続くかどうか今後の動向に注目

・住宅着工の動向については、

全体として平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが続いてきたものの、足下では横ばいの動きとなっている。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数

主力の押出に続き 板類、輸出共に減少。

・アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績 自動車生産の減少を受けて減少、さらに鉄鋼系への出荷も大幅に減少。唯一期待の自動車販売が4ヶ月振り減少。

・輸出 内需の低迷を受けて増加。特にアルミ缶が大幅増!

・輸入 内需の低迷や円高から減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、銅建値が60万から一時55万まで下落したことから塩漬け玉が多少あるが、

世界を結ぶ循環流通サービス
原料から製品まで

Ogico OHGITANI Corporation

銅・亜鉛・鉛・錫・ニッケル・アルミ・非鉄金属全般

株式会社 **扇谷**

本社 大阪市西区土佐堀1丁目3番7号
Tel:06-6444-1521~1530
東京支店 東京都千代田区神田錦町3丁目15番地
Tel:03-5282-4800
名古屋支店 名古屋市中村区名駅3丁目16番22号
Tel:052-571-2005
海外 シンガポール・香港・タイ・台湾
マレーシア・フィリピン・上海・深圳・ベトナム

<http://www.ogico.co.jp>

ここ最近ほとんどの分野で生産販の現象が続いており発生難の状況が続いている。

生産が3か月連続上昇の黄銅棒に必要な真鍮粉は需給がひっ迫しているものの、その他は安定が続くのではないか。

【価格・為替予想】

今月は、G20後の中国の景気対策と原油の生産調整問題に左右される。

G20後の中国の景気対策に関しては、上海株がデッドラインと言われた3500を大きく下回る2700付近で推移しているものの、G20前に追加の金融緩和策や財政出動に言及し、財政・金融政策を総動員して景気を下支えする姿勢を強調したこと また実際に29日、追加金融緩和に踏み切ると発表、預金準備率を0.5%引き下げたことから今後の追加的な対策に期待される。

原油減産問題に関しては、ロシアのノバク・エネルギー相が、大多数の産油国が増産凍結で合意したと述べた事や産油国は原油の供給を安定させる方法で今月中に合意すると話したことから原油が一時34.76ドルまで上昇し、期近物として1月28日以来ほぼ1カ月ぶりの高値を付けたことから今後の供給の安定に期待される。

それらを踏まえた3月の銅価格は、中国が新たな景気対策などを行い、原油の減産合意が行われた場合、2月高値の一段高1650ドルを予測。

いずれかの場合は1550ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合2月もう一段安値の1450ドル。

為替は、日本が先のG20で為替介入に関して、自制を求めるように釘を刺された事や、英のユーロ離脱懸念の再燃が今月のポイントとなるだろう

それらを踏まえ予測は

上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、英国のユーロ懸念が再燃した場合安全資産の円買いから111円台を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や金融緩和策を行い、英国のユーロ離脱懸念が後退した場合117円を予測。

メーカースクラップ購入価格は0から+5円と予測している。

亜鉛くず 現金高価買受け
亜鉛ドロス・滓 ご照会をう

再生亜鉛精錬

日進産業株式会社

代表取締役 星山えり

〒580-0006 松原市大堀1丁目7-30

TEL 0723-31-3945代表

FAX 0723-31-3974

大阪金属問屋厚生年金基金・健康保険組合 懇談会を開催



児玉理事長

大阪金属問屋厚生年金基金（児玉直樹理事長）と大阪金属問屋健康保険組合（保井松雄理事長）主催による、業界新聞、業界組合との懇談会が10日、大阪市中央区のアークホテル大阪心斎橋で開催された。これには業界関係者ら20人が出席した。

懇談会の冒頭、児玉理事長は「国内外での株価の変動や、原油価格など経済環境は非常に不安定であり、基金や健保の運営に際しても相場の安定が重要である。基金と健保は社会保険の両輪であるが、今まさに社会保険の制度自体が重要な岐路に立たされている。基金、健保ともに厳しい財政状況であるが、厳しい時こそコミュニケーションを密にして、各組合員が安心できるよう、これからも安定運営に努めてまいりたい」と述べた。

厚生年金基金の現況を岡克至常任理事が報告。1月末の厚生年金基金の年金資産は、原油安や中国経済の不安定による相場の影響を受け442億円（前年度比1.97%減）、加入員数は9396人（同102人

減）、平均給与月額が31万6650円。16年度の事業計画では、加入員数9400人、平均給与月額は31万6006円、年金の受給者は78人増の7961人になるとの説明であった。

次いで、健康保険組合の杉本猛常任理事が現況を報告。1月末の現況は259事業所で、被保険者数は1万956人（同43人減）で、平均標準報酬月額は1040円減の33万160円であった。16年度の事業計画では、被保険者数1万1000人、平均標準月額33万1800円、保険給付費は28億1172万3000円とし、準備金保有額は9億2401万3000円となる見込みであると説明した。

非鉄金属全般

銅 滓・新棒コロ

誠実対応の高田商店

代表者 高田才吉

〒544-0001 大阪市生野区新今里7丁目11-11

☎ 06-6753-1643

FAX 06-6753-4545